

## 住友ベークライト株式会社 2026年3月期 決算説明会

### 主な質疑応答議事録

日時 : 2026年5月11日(月) 15時00分 ~ 16時30分

説明者: 代表取締役社長執行役員 鍛冶屋 伸一

質疑応答では各部門担当役員による補足説明あり

#### 【全社的な事項】

Q: 2026年度の業績予想について(中東情勢などの織り込み等)

A: 中期計画の事業利益 400億円に対し、380億円(▲20億円)としている。

現時点では原料高による価格転嫁のタイムラグ影響を織り込んでいるが、7月以降も情勢が長引いた場合の景気悪化等のマイナス影響は織り込んでいない。

・セグメント別 影響比率:

- ▲20億円のうち約半分が高機能プラスチック
- 残り半分はQOLと半導体関連材料で概ね半々
- 原料高分の価格転嫁は既に顧客と協議・実行中であるが期ズレを見込んでいる。  
長期的視点では転嫁できると考えている。

#### 【半導体関連材料セグメント】

Q: 半導体関連材料の2026年度の封止材販売数量、地域別/用途別の伸びについて

A: 販売数量: 10%弱の増加を想定

地域: 引き続き中国中心に伸長見込み

用途: AI・パワー中心に伸長、2025年度は欧米の車載が不調だったが足元は回復傾向

Q: アプリケーション別の2026年度見通しについて

A: ・自動車

- 欧州中心にEV不調だったが、HEVへの方針転換で需要・購買意欲が回復
- 当社製品はHEVにも使われるため回復を見込む

・情報通信(スマホ・PC等)

- 全体として前年比10%程度の伸びを見込む
- DRAM不足によるPC・スマホへの生産影響については、大手顧客は契約でメモリーを確保しているケースが多く、報道ほどの影響は受けにくいと見込む。

Q: 半導体関連材料の新製品について

- 液状封止材の参入背景
- ヒューマノイドロボット向け材料の使用箇所、1台あたり使用量のイメージ

A：・液状封止材

- 既存デファクト品の単純追随ではなく、付加価値（モールドアンダーフィル機能を付与し、オーバーモールドとの一括封止を実現）を付けたソリューションとして開発した。顧客プロセスに合わせ液状・顆粒の両方を提供できるようにラインナップを増やした。2026年度に顧客への提供・評価が進む見込み。

・ヒューマノイドロボット向け材料

- 従来EV用途であったステーター用封止材をヒューマノイドロボットの指などの関節部分に転用した。現時点では数トン/月の規模だが、将来的に拡大していくことを期待している。

Q：液状封止材、PLP向け顆粒封止材の業績寄与の時期について

A：液状は顧客提供・評価開始し、結果が出てくるのは来年度以降の見通し。

PLP向け顆粒は、大判PLP（500角以上）のプロセス普及は数年先との見立てで、同じく来年度以降を想定している。

Q：モビリティ戦略製品の2025年度実績、2026年度見通し、伸び率について

A：2025年度実績：欧州車の低調でECU一括封止が伸び悩むも、全体では期初計画の売上110億円を超えた。

2026年度見通し：欧州の回復もあり、ECU一括封止が期初から好調に推移。

加えて、HEV向けモーター磁石固定用、パワーモジュール用も伸び、2025年度以上に伸びていくと見込む。

・伸び率：

- モビリティ全体：前年度比 +約20%
- モーター磁石固定：同+約20%
- ECU一括封止：同+約20%
- パワーモジュール用：同+約30%

Q：京セラのケミカル事業の連結化時期と、メモリー領域への期待について

A：進捗は順調で、計画通り11月から新会社を立ち上げてスタートできる見込み。

メモリーは大手メモリー3社のうち、特定1社に京セラが強く、残り2社は当社が強い。両社の強み（特に熱伝導領域）を合わせることで、大手3社に対して補完しながら提案力を高めていく。

### 【高機能プラスチックセグメント】

Q：中期計画の事業利益90億円が2026年度見通しで70億円となった要因について

構造改革（北米フェノール等）は計画対比で進んでいるか？

A：中期計画との差異の要因：

- 原材料高騰の影響
- 構造改革（不採算品撤退等）による製品ラインナップ変化
- トランプ関税影響によるグローバルでのサプライチェーンの変化

サプライチェーン変化は、2025年度上期に影響が大きく、下期は落ち着いた。一方、2026年度はイラン問題による原料高騰も加わり、通期で見ないと読み切れない。

また、ポリマー・レジンでは川上でサプライチェーンが長く、不確定要素が多く残る。

Q：主要製品（工業樹脂/成形材料、航空機向け等）の増収内訳について  
新製品（COPLUS<sup>®</sup>、AQNOA<sup>™</sup>等）の貢献見込みは？

A：26年度の数量増見込み

- 工業樹脂・成形材料：各約+5%程度
- 航空機：+約10%超

・COPLUS<sup>®</sup>の貢献

- 既に採用内定の顧客があるほか、数十社向けにサンプルワークが進行中。AI半導体、次世代ディスプレイ等、幅広い用途で評価が進んでいる。工業樹脂の今期の売上増見込み+3%の中で、COPLUSの内訳は約2割程度と見込む。

・AQNOA<sup>™</sup>の貢献

- 具体用途は非開示だが、半導体周辺領域を中心に評価が進行している。従来は溶剤・有害物等の制約で使いづらかった領域での適用を期待している。

### 【クオリティオブライフ関連製品】

Q：2026年度の見通し（売上・利益が横ばいの内訳）について

- 不採算整理による減収の有無、伸びる製品は何か？
- 固定費改善効果が見込みづらいと判断した背景は？

A：原料高（石化原料の影響が大きい）が増益分を抑制している。ヘルスケアは構造改革の底を越え、回復基調に向かう見立てだが、治験段階の案件が多く、ステント等の立ち上がりは来年度以降になる。その他分野は堅調推移と見ている。

以上